

1999年

4月6日(火) — 5月23日(日)

休館日 ▶ 4月11日(日)、12日(月)、19日(月)、26日(月)、30日(金)
5月6日(木)、9日(日)、10日(月)、17日(月)

特別展

創作版画の誕生

近代を
刻んだ
作家たち

北沢収治「人その1」(部分)
▼ 市立小鷺高原美術館蔵



太田三郎 ▶
「カフェーの女」(部分)
小野忠重版画館蔵



水島爾保 ▶
「死の捷利より」(部分)
小野忠重版画館蔵



▶ 浜田庄司
「野の幸山の幸」(部分)

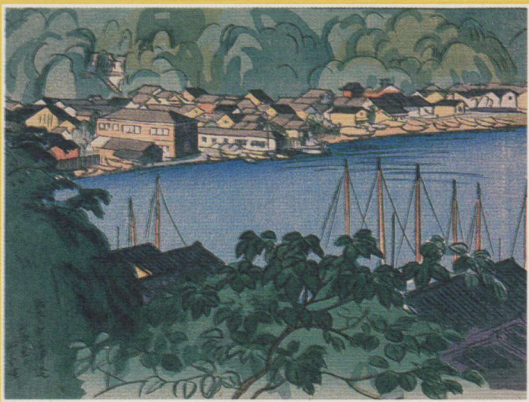
講演会 —— 4月17日(土) 午後2時より
「彫師・伊上凡骨とその時代」
岩切信一郎氏 (東京文化短期大学助教授)

開館時間 ▶ 午前9時 — 午後5時(入館は4時30分まで)
入館料 ▶ 一般 300円、小中学生 100円
(65歳以上の方及び障害者の方は無料)

主催 ▶ 渋谷区立松濤美術館
企画協力 ▶ 和歌山県立近代美術館

渋谷区立松濤美術館

東京都渋谷区松濤 2-14-14 電話 03-3465-9421



石井柏亭「日本風景版画北陸之部 能登宇出津港」
郡山市立美術館蔵



山本 鼎「漁夫」千葉市美術館蔵



萬鉄五郎「男」岩手県立博物館蔵

創作版画は、近代的な個の芸術表現を獲得していった作品として知られています。明治末期のいまだ「版画」という言葉さえない時代に、山本鼎や石井柏亭を中心とした雑誌「方寸」に集まった画家たちは、新しい版画の発表とともに普及活動を展開します。伝統的な複製版画から決別し、創造的な版画の誕生です。

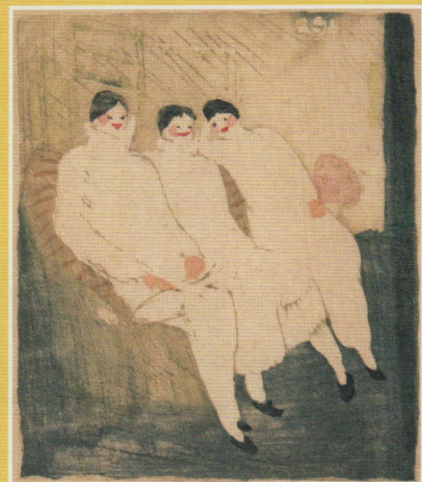
一般に創作版画運動は、自画自刻をモットーとしていられるように思われがちですが、特にその草創期には相反する考え方が同居しており実に多彩な表現がなされているのも事実です。彼らは油彩画、水彩画を描きながらまた時には陶芸の傍ら版画に傾注してゆき、その模索の中から版画独自の表現を発見したのです。

明治末の自然主義から大正の個性豊かな表現へと変遷する時代、絵画と文学に包まれた揺籃のなかから版画の芸術性は確立します。世紀末の文芸集団「パンの会」や武者小路実篤が率いた白樺派、そして表現主義などを背景にし、『明星』をはじめ、『方寸』『月映』『假面』などの美術文芸誌に掲載されることによって社会的にも浸透してゆきます。創作版画はわが国の版画の展開に大きな影響を及ぼした画期的な出来事であり、精神的影響と版画芸術の持つ重さはいまなお忘れることはできないでしょう。

本展では、山本鼎の《漁夫》発表の明治37年前後から、多くの版画家が集結し日本創作版画協会が結成された大正8年までを、版画、水彩画、油彩画、素描、装幀など300余点の作品や資料で構成し、近代的な芸術として版画を創造しようと格闘した作家たちの足跡を辿りながら創作版画の草創期を展望します。



長谷川潔「転身」



山本 鼎「野鴉」



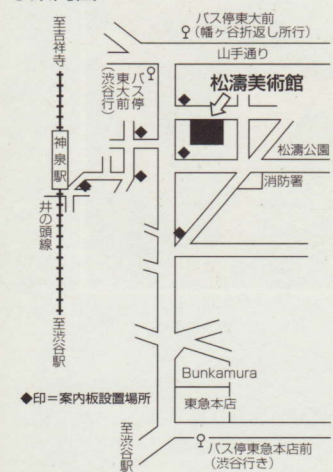
恩地孝四郎「愚人願求」須坂版画美術館蔵



川西 英「電車の通る街」神戸市立博物館蔵

渋谷区立松濤美術館

●案内図



JR渋谷駅下車徒歩15分 京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分

〈美術映画〉

4月25日(日)2時～
「現代建築家シリーズ 安藤忠雄」
5月16日(日)2時～
「現代建築家シリーズ 黒川紀章」

〈美術相談〉

4月24日(土)2時～4時
講師／宮田翁輔(油彩) 戸田康一(日本画)
5月15日(土)2時～4時
講師／遠藤原三(油彩) 大和屋巖(水彩)